

社会科（公民的分野）学習指導案

日 時 平成 27 年 11 月 26 日（木）第 5 校時

場 所 宇城市役所大会議室

年 組 宇城市立松橋中学校 3 年 6 組

男子 20 名 女子 18 名 計 38 名

指導者 宇城市立松橋中学校 教諭 柴田征宣

1 単元名 「わたしたちの政治参加」（東京書籍 P 148 ～ P 160）

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、中学校学習指導要領の公民的分野「（3）私たちと政治」の「イ 民主政治と政治参加」に位置付けられ、住民自治を基本とする地方自治の考え方を理解させ、地域社会への関心を高め、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てることを主なねらいとしている。これは、地域社会における住民の福祉は住民の自発的努力によって実現するものであり、住民参加による住民自治に基づくものであること、そして、このような住民自治を基本とする地方自治の考え方が、地方公共団体の政治のしくみや働きを貫いている基本的な考え方であることについて理解させることである。

現在の地方公共団体が抱える問題は山積しており、それを取り巻く環境は厳しいと言える。人口は都市圏など一極に集中し、過疎化が進んだ地域では産業が衰退し、鉄道やバスが廃止されたり、医者がいない地域が見られるなど社会サービスの低下が著しい。一方、過密化が進んだ都市圏でも交通渋滞や通勤ラッシュ、大量のゴミの処理、地域住民のつながりの希薄化など様々な問題がある。このような現状の中、地方公共団体が地域の住民のためにどのような取組を行っているのかを理解させることは非常に大切であり、学習の過程で地域住民の一人として、様々な問題の解決やまちの発展に自分がどう関わるのかを考える大切な機会になると考える。

生徒たちが暮らしている「宇城市」も過疎化が進んでおり課題も多い。また、本単元は、身近な地方自治について学習を進めることから、生徒の日常生活に関わりの深いものが多く、様々な情報に接する機会も多い。そのため、生徒のこれまでの生活経験や知識を生かしながら学習を進めていくことが可能である。したがって地方自治について身近な生活との関連から学習していくことは、地域社会への関心を深めるとともに、今後のよりよい社会の形成に参画する資質や能力の育成につながるものであると考える。

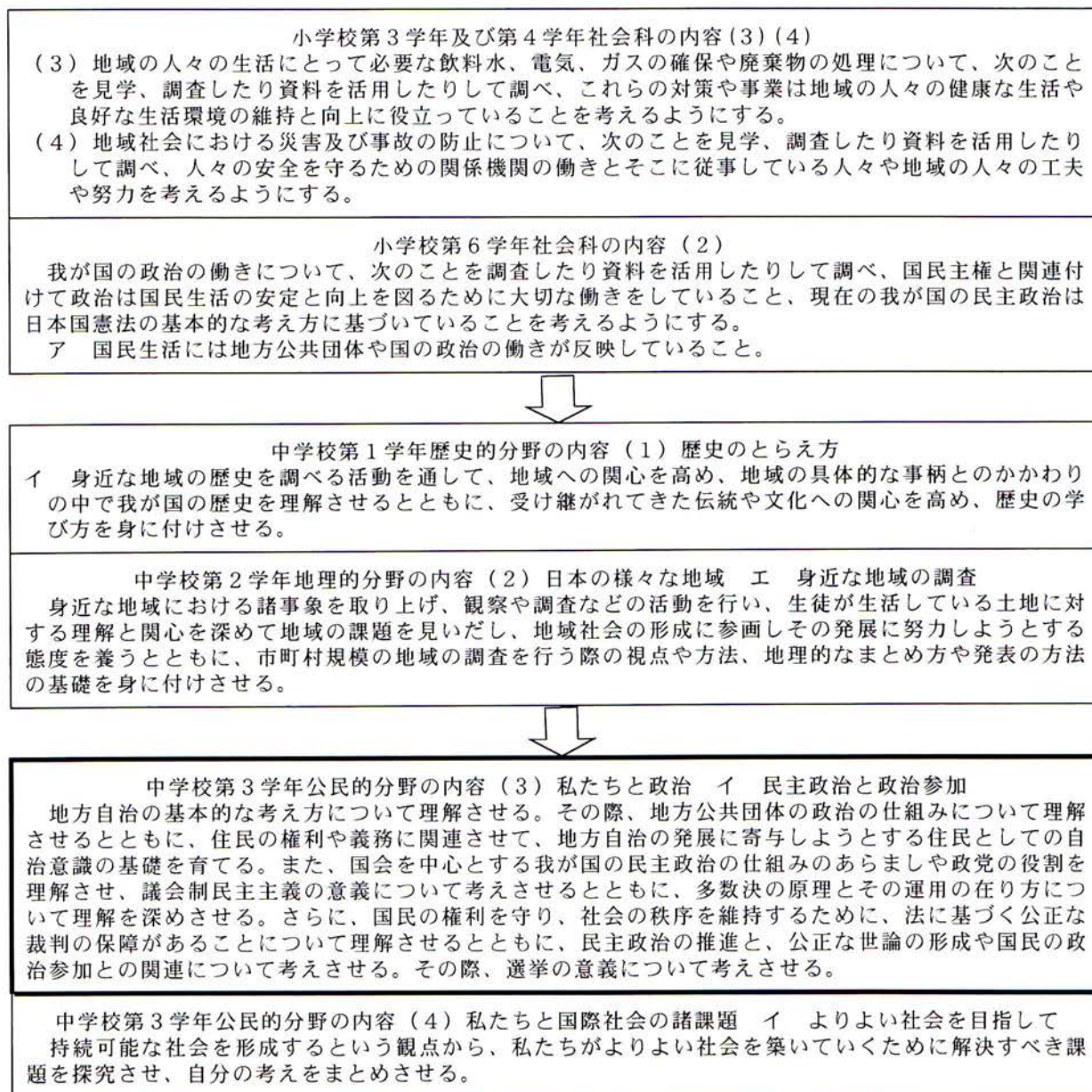
【研究テーマとの関連：教材選択の条件】

- ③「具体性」を備えた教材…子どもたちが直接目にして感じ取ることができる教材
子どもたちが想像力豊かにイメージを形成できる教材
- ⑦「課題性」を含む教材…子どもたちに問題意識をもたせ、追究意欲を起こさせるような教材

本単元では2040年問題を取り上げて、生徒が宇城市の未来を具体的に予測し、問題意識を持つことをねらいとしている。また、宇城市に関する様々な資料をもとに、宇城市の強みと弱みを4つの視点「もの」「こと」「ひと」「かね」から追究することを通して、活性化プランを考える活動を行う。以上のことから、「具体性」を備えた教材及び「課題性」を含む教材であると言える。

(2) 単元の系統

本単元における系統は以下の通りである。



(3) 生徒観

① 事前のアンケート調査の結果より(調査人数37名)

本学級の生徒は、全体的に社会科の学習に意欲的に取り組み、明るく元気の良い学級である。しかし、小集団学習では意欲的に自分の意見を出す生徒も見られるが、他の意見に同意するだけの生徒もいる。他の意見を聞き、議論などを通して、自分の考えを深めたりするところまで達していない生徒が多く、班活動を取り入れる場

合も班員が変わるとまとまるのに時間がかかったりし、支持的風土が育っているとは言えない。

また、生徒たちにとって地方自治は、政治のしくみのうえで最も身近な存在とはいいながらも、国政レベルの情報と比べ、テレビや新聞等で頻繁に取り上げられる機会が少ないためか曖昧なイメージが多く、それに関する知識も乏しいと思われる。さらに、普段の生活の中で自分たちが住んでいる宇城市の政治や課題について切実感を持つことはなく、関心を持つ機会もほとんどないと思われる。

単元や授業の在り方に関する事前のアンケート結果は、以下の通りである。

授業の在り方に関するアンケート項目	ア	イ	ウ	エ
1. グラフや分布図から大まかな傾向を読み取ることができている。	6	7	16	8
2. 資料を比較し、違いや共通点を探したり、関連付けたりすることができている。	5	11	15	6
3. 資料をもとに友達に対して分かりやすく説明することができている。	3	3	21	10
4. 課題に対してじっくり考え、自分の考えをはっきりと伝えようとしている。	8	11	13	5
5. ペア活動やグループ活動で自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりして考えを深めたり高めたりすることができている。	6	9	12	10

※ ア=できている イ=だいたいできている ウ=あまりできていない エ=できていない

単元に関するアンケート項目	ア	イ	ウ	エ
6. 宇城市の政治や財政に興味がありますか。	2	11	11	13
7. 地域でのボランティア活動に興味や関心はありますか。	2	14	17	4
8. 主権者（政治の主人公）という住民意識はありますか。	2	3	11	21

※ ア=ある イ=ややある ウ=あまりない エ=ない

単元に関するアンケート項目	
9. 宇城市の人口は約何万何千人でしょう。	約6万人と答えられたのは2名。
10. 宇城市の1年間の予算は、どのくらいでしょう。	上は5兆から下は1000万まで幅広い回答。
11. 宇城市の市長は誰ですか。	フルネームで8名、苗字のみ2名正解。

② 事前に行った評価問題解答状況と現3年生における県学力調査の結果より

<平成25年度県学力調査の抜粋（第二次世界大戦後における日本の経済の変化に関する問題）>

- I 資料の時期を、グラフの変化と関連させながら選択できること。
- II 熊本の交通の変化を2つ資料から読み取り、高度経済成長と関連付けて説明できること。
- III 熊本の将来について関心を持ち、自分なりの考えを提案しようとしていること。

Iでは、多くの生徒が解答することができた。IIでは、2つの資料と高度経済成長について説明している生徒が7人と少ない。相互に比較・関連付けて解釈することに課題があると考えられる。IIIでは、自分の考えを生活と関連付けて述べていくことが期待されたが、「身の回りの生活」や「将来」の観点で考えた生徒は少ない。

また、昨年度の県学力調査の結果を見ると、観点別では県と比較して「思考・判断・表現」と「知識・理解」の観点の落ち込みが大きい。さらに細かく小問別の定着率を分析してみると、資料から読み取り説明する問題や自分の言葉で表現する問題については、かなり低い定着率となっており、苦手としている生徒が多く課題であることが分かる。

(4) 指導観

- ・ 地域社会への関心を高め、将来住みよいまちにするにはどのようなことが必要で、

どんな条件が整えば自分もここで生活していきたいと思うことができるか、そのために中学生の立場で自分に何ができるのかということに視点を置いて、思考できるような教材・教具の開発や授業展開の工夫等を行いたい。

- ・ 単元を貫く学習課題を設定し、地域のよさや課題を見つけ、どうすればよりよいまちづくりができるのかについて、実際に自分たちの提案を行政の方に聞いてもらうことで、住民の一人として意欲的に、主体的に地方自治に取り組む基礎を育て、社会参画への意識を高めたい。
- ・ 市勢要覧や広報誌などを活用し、地域の素材を使って主体的に調べを進め、宇城市の課題について考察する。また、その課題の解決策について意見をまとめ、より魅力的なまちづくりのための具体策について、聞く人に分かるように工夫して発表する場面を設定したい。
- ・ 自分の意見をまとめる時には根拠を明らかにし、他の意見に対する自分の考えを述べるができるように、授業展開や助言、ワークシートの形式等に工夫を凝らしたい。また、発表しやすい形態と雰囲気づくりを心掛け、様々な意見を交流させることで考えをさらに深めさせ、よりよい地方自治の在り方を考える態度を育てていきたい。
- ・ 資料を読み取る時間や自分の意見を練り上げる時間など、各自が課題にしっかりと向き合う時間の確保に努めたい。また、複数の資料（地図やグラフ、統計資料など）を比較・関連付けて、自分の考えを述べさせるための補助的発問や指示、ワークシート等の工夫を行い、多面的・多角的に考察し、表現できる力の定着や向上を図っていきたい。

3 単元の目標

社会的事象への 関心・意欲・態度	自分たちが住む地域社会の諸問題に関心を持ち、身近な情報や資料を活用して、現状及び地方公共団体の仕事や役割などについて意欲的に調べたり考えたりしようとしている。
社会的な 思考力・判断力・表現力	自分たちが住む地域社会の諸問題について、対立と合意、効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し、主権者としての政治参加の在り方や責務について、その過程や結果を適切に表現することができる。
資料活用の技能	地方自治に関する様々な情報や資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、整理することを通し、読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。
社会的事象についての 知識・理解	住民自治を基本とする地方自治の考え方や、地方公共団体の政治のしくみ、地方財政のしくみなどについて理解することができる。

4 単元の指導計画と評価（基準）計画（全6時間、本時6／6）

次	時	主な学習活動	評 価
単元を貫く課題：宇城市の未来を切り拓く「うきうき活性化プラン」を提案しよう！			
1	1	「わたしたちと地方自治」 ○宇城市の条例や市勢要覧などを調べ、地方自治の意味と役割について理解する。	○地方の政治に関心を持ち、地方自治の根本は住民自治であることに気付いている。 【関心・意欲・態度】 ○地方公共団体の仕事について、国との違いに触れながら、地方分権の考え方について理解することができる。 【知識・理解】
2	1	「地方自治の制度」 ○地方自治の制度について、身近な宇城市のしくみから理解する。	○地方公共団体のしくみを、地方議会と首長の役割を中心に理解することができる。 【知識・理解】
3	1	「地方財政」 ○宇城市の財政について調べ、地方財政の抱える問題について話し合い、これからの財政の在り方について考える。	○地方財政の課題と将来の財政のあり方について、宇城市に関する資料をもとに説明することができる。 【思考・判断・表現】 ○宇城市の財政に関する資料から、その財政事情を適切に読み取ることができる。 【技能】
4	1	「宇城市の未来について予測しよう」 ○2040年問題について知り、宇城市の未来を予測し、付箋紙に書き出す。 ○宇城市のよりよい未来づくりのために、2040年問題の解決策として、どんな取り組みが必要か考える。	○宇城市の未来を予測し、未来を切り拓くための方策を意欲的に考えたり話し合ったりしている。 【関心・意欲・態度】
5	1	「うきうき活性化プランを提案しよう」 ○4つの視点「もの」「こと」「ひと」「かね」を役割分担し、宇城市に関する資料をもとに、宇城市の強みと弱みを読み取る。	○自分の与えられた役割を果たすため意欲的に活動している。 【関心・意欲・態度】 ○宇城市に関する資料から、宇城市の強みと弱みを読み取ることができる。 【技能】
	1 本 時	○各視点ごとの情報を伝え合い、各グループごとにプランを考える。 ○ゲストティーチャーの話を聞き、再度プランを練り直す。 ○宇城市の未来を切り拓くために、自分にできることは何かを考える。	○地域住民の一人として地域をよりよくするために何ができるかを、自分の言葉で説明することができる。 【思考・判断・表現】

5 本時の学習

(1) 本時の目標

地域住民の一人として地域をよりよくするために何ができるかを、自分の言葉で説明することができる。

(2) 本時の展開

過程	時間	主な学習活動	学習形態	教師の指導 (予想される生徒の反応)	教材 資料等
導入	3	1 これまでの学習を振り返り、 本時の学習課題をつかむ。	一斉	○これまでの学習を振り返り、自分 たちが宇城市の未来を切り拓かな ければならないという意識を高め させ、学習課題を確認する。	前時まで使用 した資料
展 開		宇城市の未来を切り拓く「うきうき活性化プラン」を提案しよう！			
	17	2 各視点ごとの情報を伝 え合い、プランを考える。	班	○4つの視点から出された強みと弱 みを関連付けてプランを考えさせ る。 ・プラン名「レンコンプラン」 ・レンコンに関する「もの」の強み と「ひと」の強みを結びつけると、 プランが作れるぞ。等	4つの視点に 関する資料 ワークシート まとめシート
	5	3 各グループのプランを表現 交流する。	一斉	○他のグループのよさを見つけ、自 分のグループのプランを練り直す 際に活用させる。	まとめシート
	15	4 ゲストティーチャーの話を 聞き、再度、活性化プランを 練り直し発表する。	班	○行政という専門的な立場からの情 報を確認し、助言やアドバイス等 を自分たちのプランの改善に生か すように促す。	GT (市役所職員) まとめシート 座標軸シート
ま と め	7	5 宇城市の未来を切り拓くた めに、自分にできることは何 かを考える。	個人	○これまでのとらえ方と変わったこ とや深まったことについてまとめ させる。	ワークシート
	3	6 ゲストティーチャーから全 体の講評を聞く。	一斉	○地域の課題や悩みを知り、中学生 に対する期待の大きさを感じさせ るとともに、宇城市の未来を切り 拓こうとする意欲を高めさせる。	GT (市役所職員)

(3) 本時の評価

場面	評 価 基 準
評価	A：地域住民の一人として地域をよりよくするために何ができるかを多面的・多角的に考え、 自分の言葉で説明することができる。 B：地域住民の一人として地域をよりよくするために何ができるかを、自分の言葉で説明すること ができる。